

今期業況天気図

今期業況天気図

期間：令和5年10月～12月（売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較）

全業種総合の天気図は「小雨」で、総合業況DIは▲22と、前期▲16から6ポイントの悪化。業種別では、建設業は▲17（前期差2ポイント増）、製造業は▲19（前期差3ポイント増）とほぼ前期並みだった。飲食業・サービス業は▲24（前期差13ポイント減）で大幅に悪化し、小売業・卸売業が▲28（前期差9ポイント減）もDIが減少した。

事業者向けビジネスと消費者向けビジネスで明暗が分かれ、製造業・建設業は引き続き回復基調であるが、夏季から秋季は好況に向かっていった小売業やサービス業は、景況は悪化し、年初の水準まで下落した。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲ 4	▲ 1	3	▲ 16	▲ 6
採算	▲ 24	▲ 16	▲ 12	▲ 42	▲ 27
仕入単価	▲ 65	▲ 68	▲ 73	▲ 86	▲ 51
販売単価	20	32	12	30	11
従業員	23	19	25	17	28
資金繰り	▲ 16	▲ 11	▲ 15	▲ 28	▲ 16
今期業況 （総合判断）	▲ 22	▲ 19	▲ 17	▲ 28	▲ 24
今期業況 天気図					

業況天気図凡例					<<景気観測調査>> 前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。
快晴 DI値 31以上	晴れ DI値 30～11	薄曇り DI値 10～▲10	小雨 DI値 ▲11～▲30	雨 DI値 ▲31以下	

参考）今期業況天気図の推移

	全産業	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
3四半期前 令和5年1月～ 3月期					
2四半期前 令和5年4月～ 6月期					
1四半期前 令和5年7月～ 9月期					
今期 令和5年10月～ 12月期					

今期業況天気図

今期業況天気図(小規模事業者)

(商業・サービス業従業員5名以下、その他の業種20名以下)

期間: 令和5年10月～12月(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較)

小規模事業者のみの全業種総合のDIは▲26(前期差5ポイント減)で天気図は「小雨」。建設業は▲18(前期差5ポイント増)で小幅の改善が続く。製造業は▲26(前期差2ポイント減)、小売業・卸売業は▲27ポイント(前期差1ポイント増)はほぼ前期並みであった。飲食業・サービス業は▲31(前期差15ポイント減)で、大幅に悪化した。消費者の消費意欲が減退し、コロナ禍の終了から続いていた売上の回復傾向が止まったためと考えられる。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲11	▲3	1	▲24	▲18
採算	▲26	▲19	▲12	▲44	▲31
仕入単価	▲65	▲70	▲70	▲84	▲52
販売単価	14	23	7	29	6
従業員	16	13	24	9	15
資金繰り	▲20	▲16	▲16	▲33	▲19
今期業況(総合判断)	▲26	▲26	▲18	▲27	▲31
今期業況 天気図					

今期業況天気図(小規模事業者以外の中小企業)

期間: 令和5年10月～12月(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較)

全業種総合のDI値は▲14と前期差5ポイントの悪化で、天気図は「小雨」。製造業は▲8(前期差10ポイント増)で回復が進む。飲食業・サービス業は▲14(前期差8ポイント減)で減少、建設業は▲8(前期差14ポイント減少)と小売業・卸売業は▲29(前期差24ポイント減)で大幅に悪化した。前期にプラスになっていた建設業は再びマイナスとなり、前期は好況だった小売業・卸売業と飲食業・サービス業が急激に悪化し、1年くらい前の水準に戻った。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	7	3	15	▲3	11
採算	▲20	▲13	▲8	▲39	▲21
仕入単価	▲64	▲66	▲92	▲90	▲51
販売単価	30	47	38	32	18
従業員	36	27	31	32	44
資金繰り	▲10	▲3	▲8	▲19	▲11
今期業況(総合判断)	▲14	▲8	▲8	▲29	▲14
今期業況 天気図					

業況天気図凡例					<<景気観測調査>> 前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。
 DI値 31以上	 DI値 30～11	 DI値 10～▲10	 DI値 ▲11～▲30	 DI値 ▲31以下	

次期見通し業況天気図

次期見通し業況天気図

令和6年1月～3月見込(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・次期業況DI値は今期との比較)

全産業の次期見通しの天気図は、▲19(今期差3ポイント増)で、天気図は「小雨」の見込み。産業別にみると、今期減少した製造業が▲12(今期差7ポイント増)と建設業▲14(今期差3ポイント増)は回復の見込み。飲食業・サービス業は▲23(今期差1ポイント増)と、小売業・卸売業は▲28(今期差±0ポイント)は、今期と同様な景況が続き回復が遅れるとみられている。

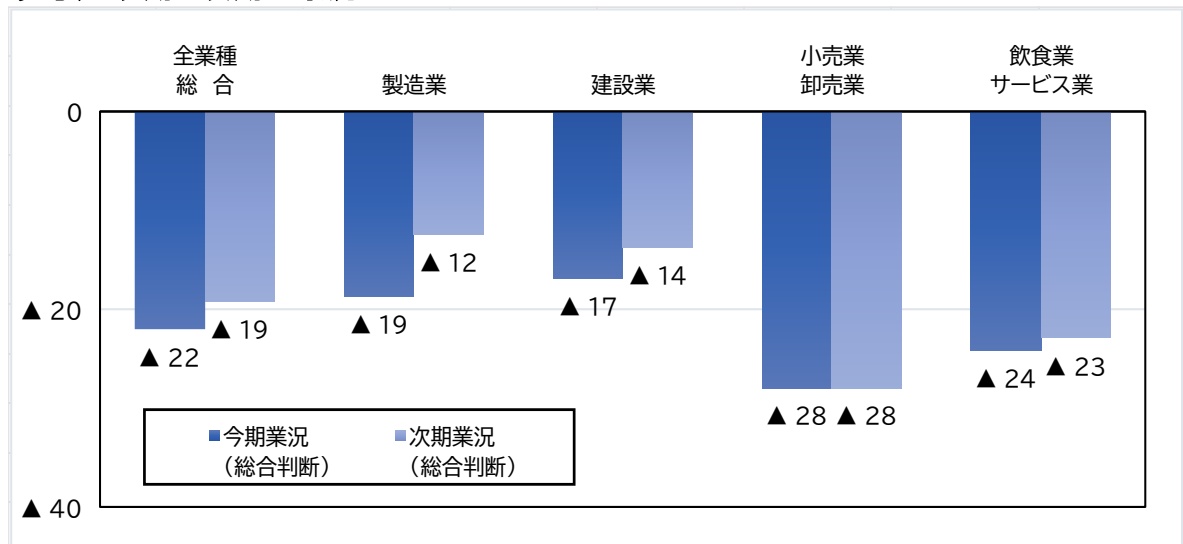
	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲ 6	▲ 3	▲ 1	▲ 12	▲ 9
採算	▲ 16	▲ 9	▲ 11	▲ 24	▲ 21
仕入単価	▲ 47	▲ 46	▲ 56	▲ 57	▲ 42
販売単価	12	20	4	22	5
従業員	23	20	25	19	25
資金繰り	▲ 13	▲ 8	▲ 12	▲ 20	▲ 14
次期業況 (総合判断)	▲ 19	▲ 12	▲ 14	▲ 28	▲ 23
次期業況 天気図					

業況天気図凡例

 快晴 DI値 31以上	 晴れ DI値 30～11	 薄曇り DI値 10～▲10	 小雨 DI値 ▲11～▲30	 雨 DI値 ▲31以下
---	--	--	--	---

<<景気観測調査>>
前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。
「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。

参考) 今期と次期の業況DI



次期見通し業況天気図

次期見通し業況天気図(小規模事業者)

(商業・サービス業従業員5名以下、その他の業種20名以下)

令和6年1月～3月見込(売上・採算・資金繰り・仕入単価・販売単価・従業員・次期業況DI値は今期との比較)

全産業の次期見通しは▲22(今期差4ポイント増)と、改善が進み天気図は「小雨」の見込み。産業別にみると、建設業は▲13(今期差5ポイント増)、製造業は▲23(今期差3ポイント増)と引き続き改善が進む見込み。今期悪化した飲食業・サービス業は▲23(今期差8ポイント増)と上昇に転じる予想である。小売業・卸売業は▲31(今期差4ポイント減)は、今期に続き若干の悪化が続くと見られている。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲12	▲10	▲6	▲18	▲14
採算	▲19	▲16	▲12	▲29	▲20
仕入単価	▲46	▲40	▲55	▲51	▲43
販売単価	7	10	▲1	25	3
従業員	16	13	24	11	15
資金繰り	▲15	▲15	▲12	▲22	▲15
次期業況(総合判断)	▲22	▲23	▲13	▲31	▲23
次期業況 天気図					

次期見通し業況天気図(小規模事業者以外の中小企業)

令和6年1月～3月見込(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・次期業況DI値は今期との比較)

全産業の次期見通しの天気図は、▲14(今期差±0ポイント)で、「小雨」の予測。産業別にみると、製造業は3(今期差11ポイント増)でコロナ禍後はじめてプラスに転じると予想されている。建設業は▲15(今期差7ポイント減)と前期の水準に下落。今期大幅に悪化した小売業・卸売業は▲23(今期差6ポイント増)でやや回復の見込み、飲食業・サービス業は▲22(今期差8ポイント減)と、引き続き悪化が続くとみられている。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	3	8	31	0	▲2
採算	▲12	2	0	▲16	▲21
仕入単価	▲50	▲55	▲62	▲68	▲40
販売単価	19	34	38	16	8
従業員	36	31	31	32	40
資金繰り	▲9	3	▲8	▲16	▲14
次期業況(総合判断)	▲14	3	▲15	▲23	▲22
次期業況 天気図					

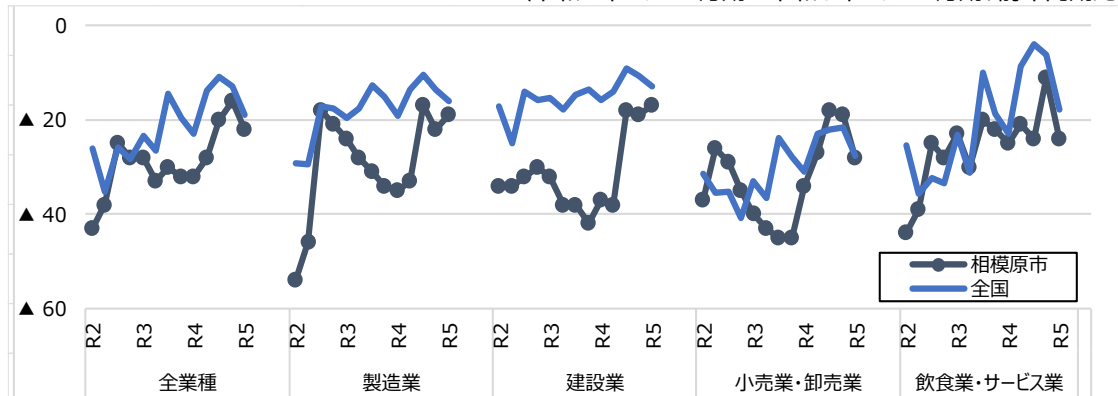
業況天気図凡例					<<景気観測調査>> 前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。
快晴  DI値 31以上	晴れ  DI値 30～11	薄曇り  DI値 10～▲10	小雨  DI値 ▲11～▲30	雨  DI値 ▲31以下	

業況DIの推移

業況DI(前年同期比)の推移

全産業の業況DIは、今期は▲22(前期差6ポイント減)で、若干の悪化であった。
産業別にみると、建設業は▲17、製造業は▲19と前期並みであった。飲食業・サービス業は▲24、小売業・卸売業は▲28と、夏～秋の改善傾向から、再び悪化に転じた。
全国と比較すると緩やかな回復が続いた製造業と建設業は全国と同様な水準に近づいた。小売業・卸売業と飲食業・サービス業は全国と同様にDIが下落した。

(令和2年10-12月期～令和5年10-12月期、前年同期比)

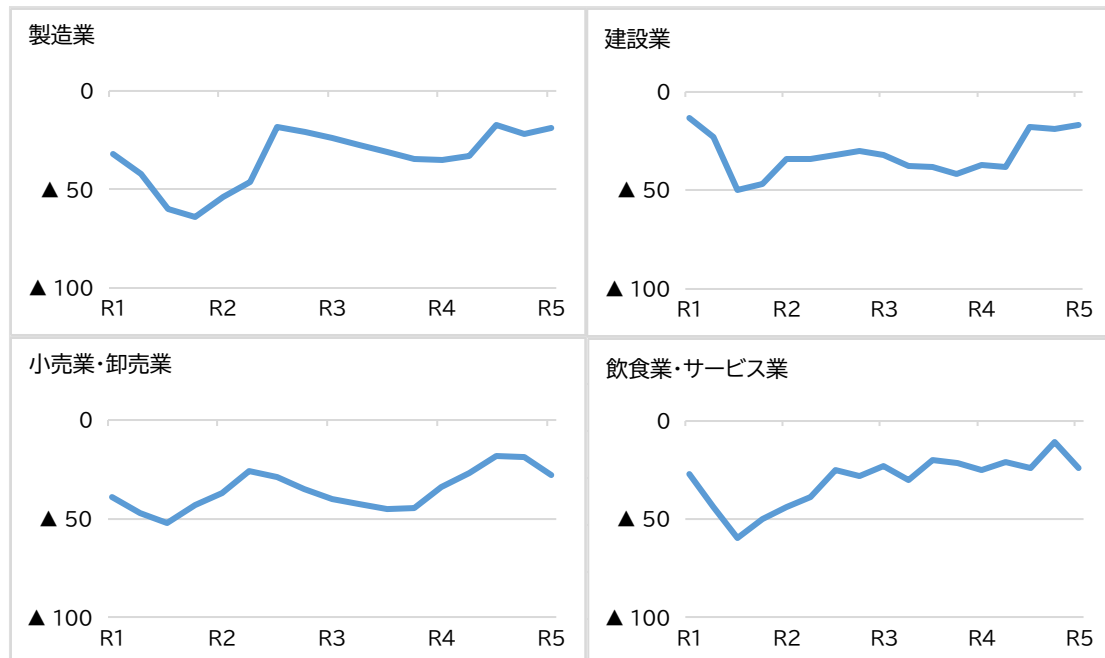


※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「業況判断DI」を使用。

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※業況DIについて、当所では「総合判断」、中小企業庁は「業況(自社)」を質問項目としている

参考)業況DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



業況DI(特徴的なトピックス)

産業別に寄せられた特徴的なトピックスは以下のとおりである。

【製造業】

- ・少しずつですが、仕事量が回復しています。【配電盤組立】
- ・新製品の3月発売で売上増となった。来年はその延長で売上、資金繰りは好転の見通し。【医療機器およびその周辺機器の製造販売】
- ・お客様の閉鎖、倒産、受注減。【不織布製品の企画製造販売(不織布バッグ)(不織布巾着)(ハッピ)その他】
- ・原材料価格の上昇に加えエネルギーコストの上昇が収益悪化に大きく影響している。【歯磨剤、化粧品品の製造販売】

【建設業】

- ・インバウンドの回復及びコロナ禍での投資抑制の反動もあり、投資意欲は旺盛。労務逼迫、資機材コスト動向を注視しつつ更なる利益改善に取り組む必要がある。2024年4月に迫った「時間外労働上限制限」への全社一体での取り組みは急務。デジタル活用、人材育成、協力会社との連携など、中長期を見据えた現場力の強化が必要。脱炭素社会への適応・貢献と利益創出の両立が必要。【土木、建築工事請負業・不動産事業】
- ・好機としては国の補助金に対しての施工依頼の増加。低下については年明けより補助金がなくなり売り上げ減少の予感。【エクステリアの工事 販売】
- ・インボイス開始による取引先の状況が神経質なこと。【看板業】
- ・工事受注は、取れておりますが、協力会社に発注するため(人手不足の為)利益が少ない。自社で施工できれば増益につながります。材料代も上がっている所以で利益が薄いです。【管工事業】

【小売業・卸売業】

- ・新型コロナウイルスの影響が収まり、取引先ショッピングセンターの売上げが増加。年末年始の需要もコロナ禍以前に回復すると見込まれるため、見通しは若干明るくなっています。【米菓製造販売】
- ・消費者様の意識の変化。コロナの影響がいまだにある。消費する意識が無くなっていると感じます。【光触媒製品、空気中触媒製品の開発と販売】
- ・コロナも落ち着いてきて今まで巣ごもり需要で忙しかった、リフォーム事業が他の産業への需要が流れている。【住宅設備卸売業】
- ・食品は比較的好調に推移していますが、8月まで好調だった衣料品が9月に入り低迷しています。秋も高気温が続いたことが原因と思われます。光熱費の上昇による経費増加、利益減少が続いています。【衣料品、住まいの品、食品】

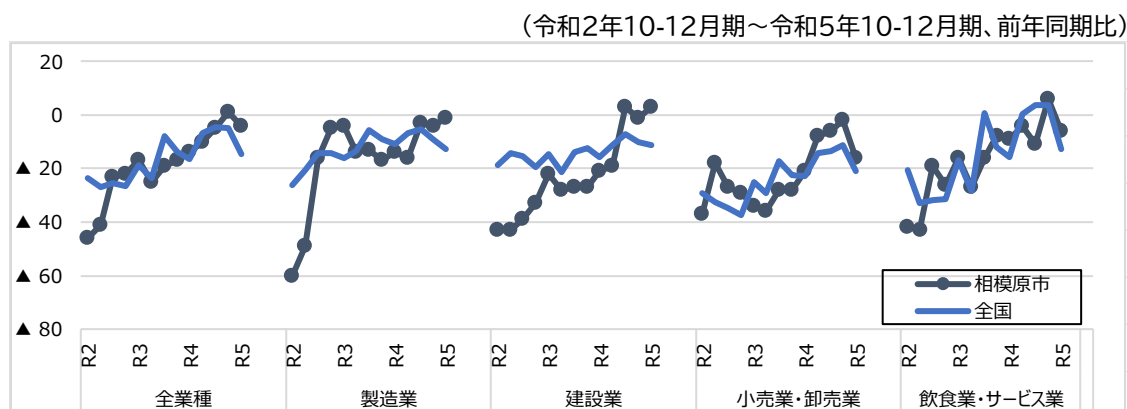
【飲食業・サービス業】

- ・コロナを気にする人々が少なくなり、宴会などが戻って来た。【レストラン・パーティー・イベントホール】
- ・コロナ禍、インフルエンザの流行により、外出を控える高齢者がまだ多くおり、営業活動に支障を来している。【行政書士業】
- ・某社問題と保険業界に絡む不祥事案が増えているので、保険業界の信頼が低下しないかが不安。【損害保険代理店、生命保険代理店】
- ・建設施工単価が上昇しているのに元請の対応(理解)は低い。【建設DXに向けたシステム開発】
- ・燃料高騰、オイル、ゴム製品の値上がり、運賃変わらず、来年に迫る24年問題…。【自動車部品】

売上DI(前年同期比)の推移

全産業の売上DIは、▲4(前期差5ポイント減)と、前期のプラスから再びマイナスに転じた。産業別にみると、建設業は3で再度プラスに転じ、製造業が▲1で前期並みであった。飲食業・サービス業は▲6、小売業・卸売業は▲16で、いずれも悪化に転じた。

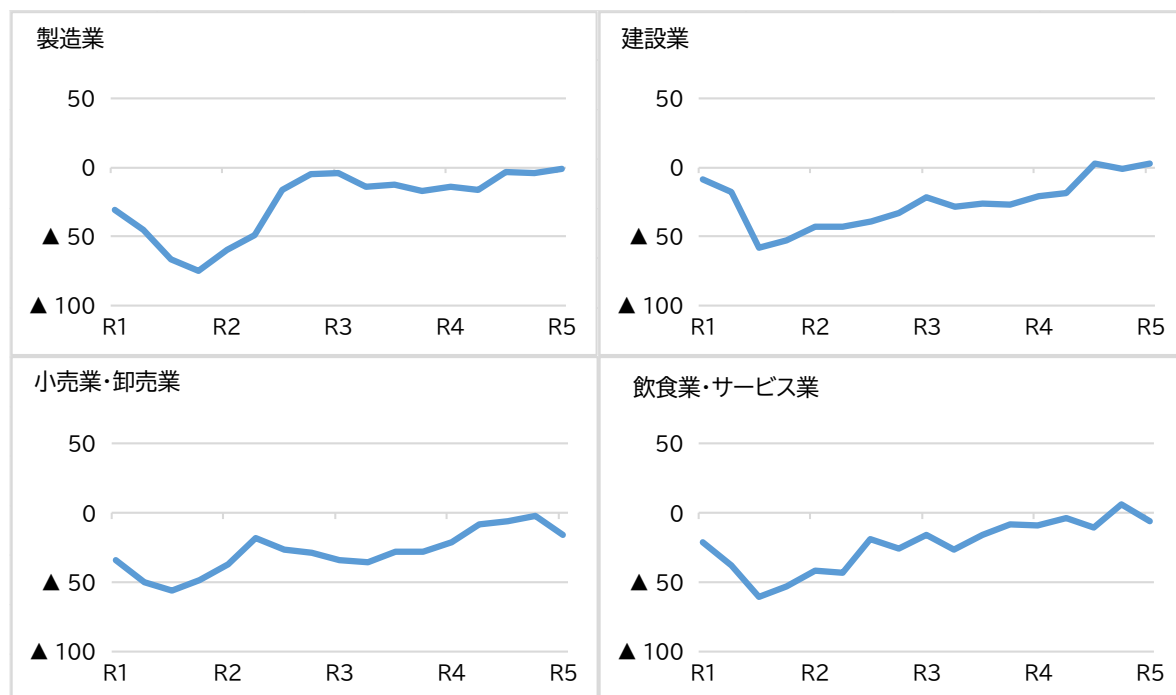
全国と当市を比較すると、全産業で全国よりもDIが高くなった。



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「売上額DI」を使用。

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

参考) 売上DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



採算DIの推移

採算DI(前年同期比)の推移

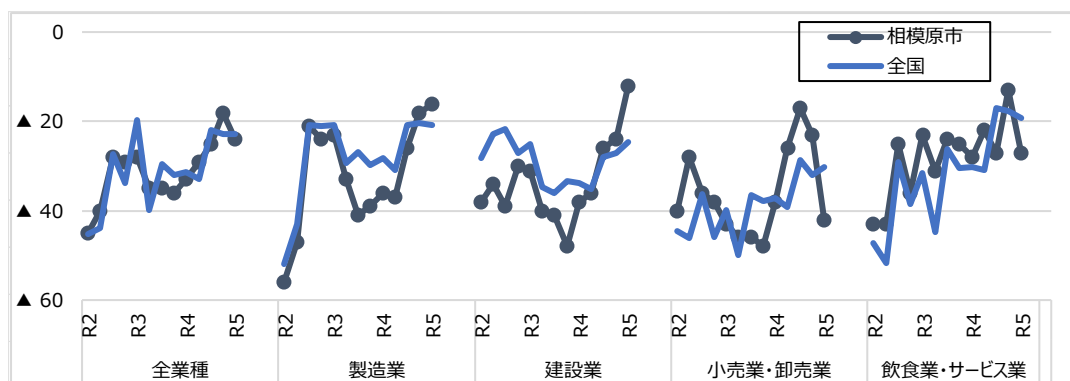
全産業の採算DIは、▲24(前期差6ポイント減)と、若干の悪化であった。

産業別にみると、建設業は▲12で大幅な改善であった。製造業が▲16で前期並みだった。飲食業・サービス業は▲27で昨年の水準まで悪化した。小売業・卸売業は▲42と、大幅な下落が見られた。

製造業と建設業はゆるやかな改善が着実に続いている。小売業・卸売業では売上DIの変動幅よりも採算DIのほうが大幅に下落しているのは、仕入高やコスト高による支出増加が深刻であることが覗える。

産業別に今期の数値を全国値と比較すると、全産業において、全国よりも状況が良くなっている。

(令和2年10-12月期～令和5年10-12月期、前年同期比)

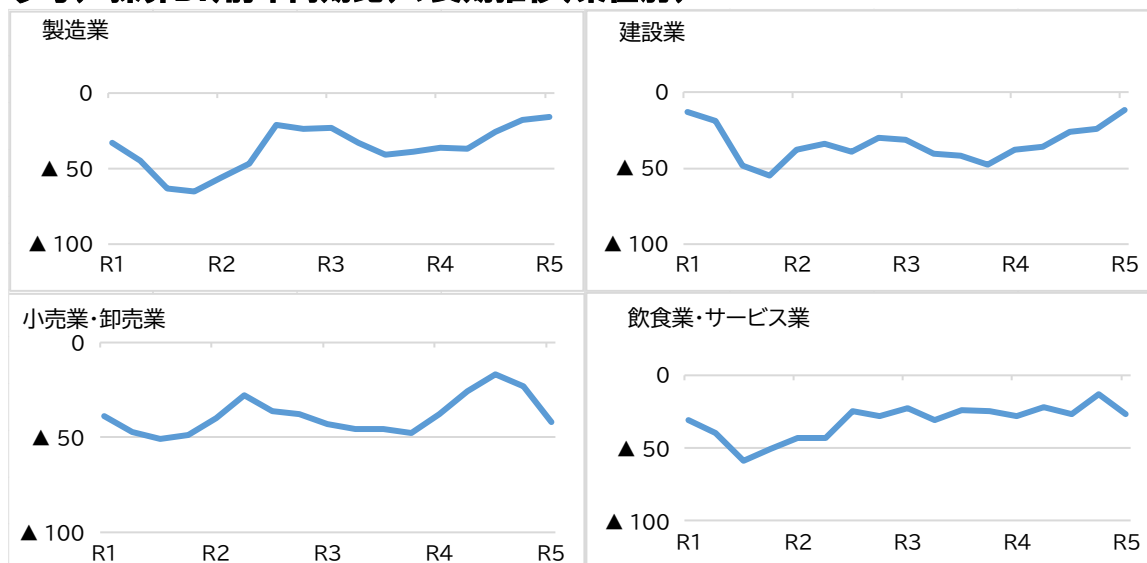


※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※採算DIについて、当所では「採算」、中小企業庁は「経常利益」を質問項目としている

参考) 採算DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



仕入単価DIの推移

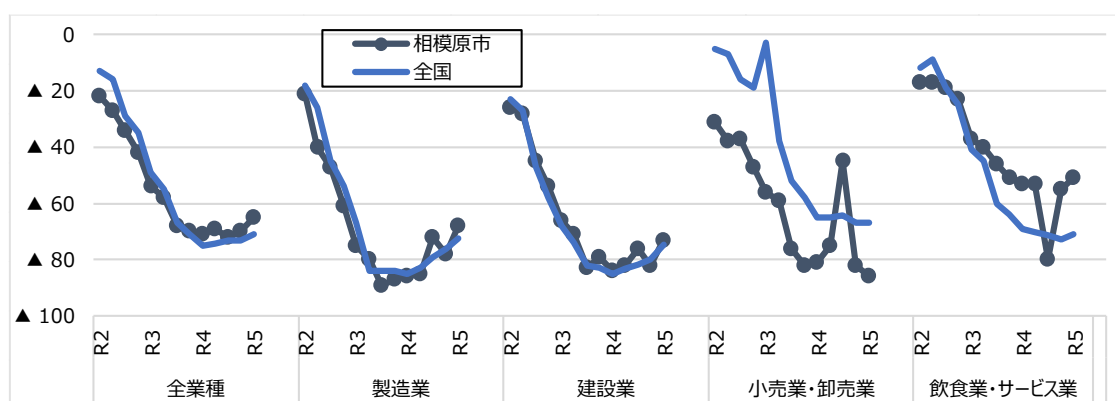
仕入単価DI(前年同期比)の推移

全産業の仕入単価DIは▲65(前期差5ポイント増)で、若干上昇したが、ほぼ変動がなかったといえる。

産業別にみると、飲食業・サービス業が▲51、製造業が▲68、建設業は▲73と、いずれも若干の改善だった。小売業・卸売業は▲86と悪化が続いている。

全国と比較すると、小売業は全国より悪く、サービス業は状況が良い。

(令和5年10-12月期～令和5年10-12月期、前年同期比)



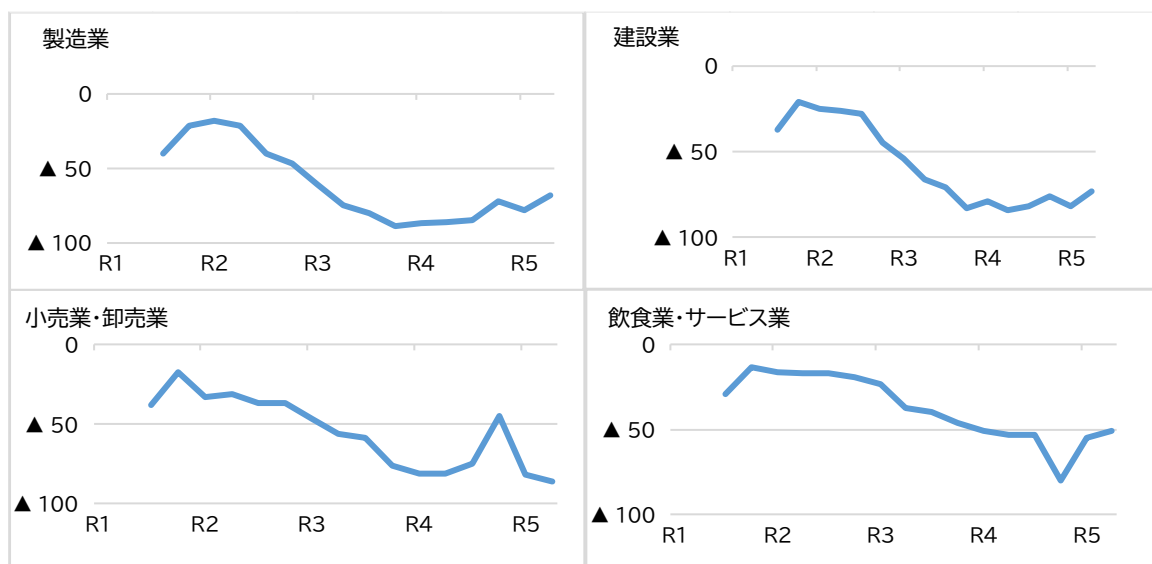
※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「原材料・商品仕入単価DI」を使用。

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※仕入単価DIについて、当所では「DI=下落—上昇、中小企業庁は「上昇—低下」で算出。

比較にあたっては、全国値の符号を反転させている。

参考) 仕入単価DI(前年同期比)の長期推移(業種別)

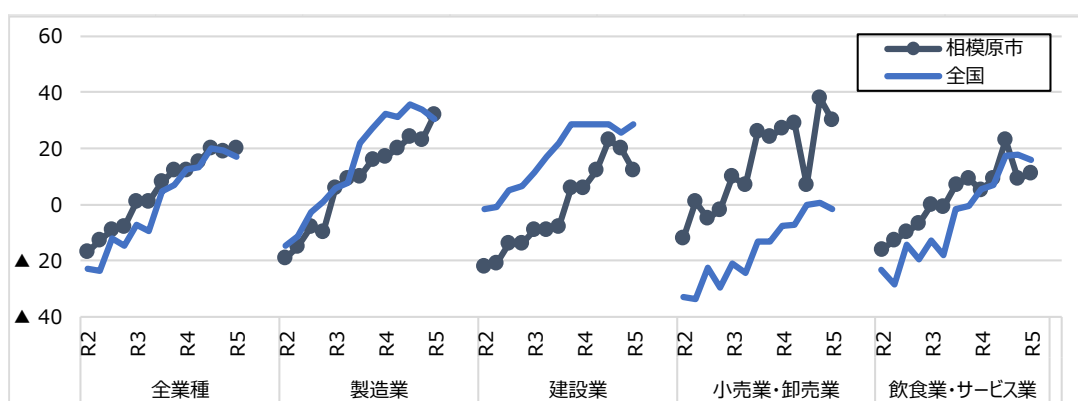


販売単価DIの推移

販売単価DI(前年同期比)の推移

全産業の販売単価DIは、20(前期差1ポイント増)と、前期とほぼ変わらなかった。
産業別にみると、製造業は32で上昇し、飲食業・サービス業は11で前期並みだった。小売業・卸売業が30、建設業は12でやや下落した。
全国値と比較すると、建設業は全国よりも低い水準となった。小売業・卸売業は、全国よりもかなり高い状態が続く。

(令和2年10-12月期～令和5年10-12月期、前年同期比)

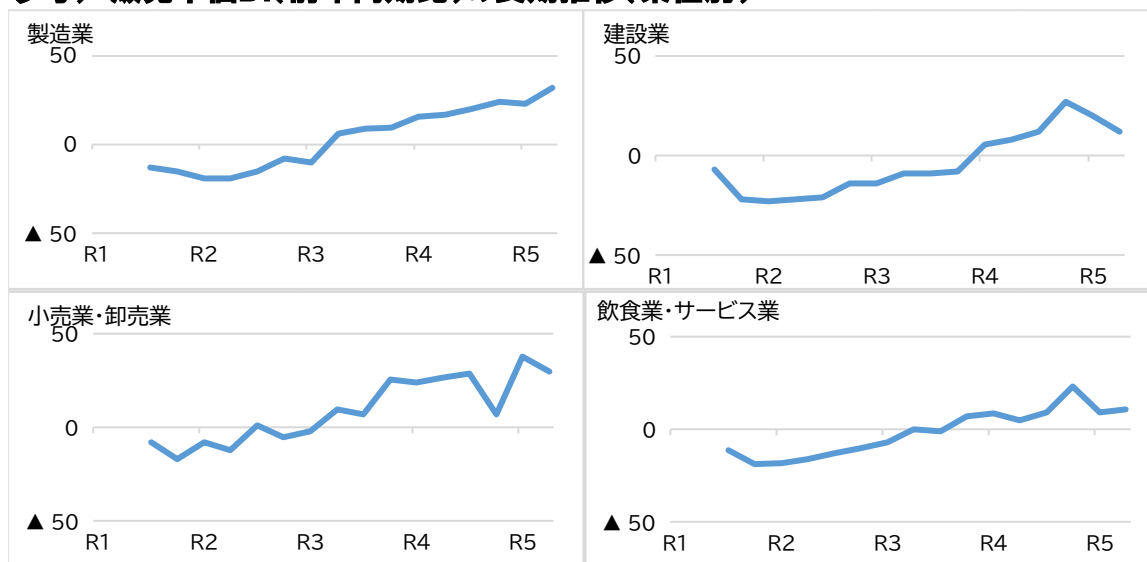


※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「販売単価・客単価DI」を使用。

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※建設業については、全国値は日本商工会議所「早期景気観測商工会議所LOBO／建設業令和5年12月」分類の値を使用

参考) 販売単価DI(前年同期比)の長期推移(業種別)

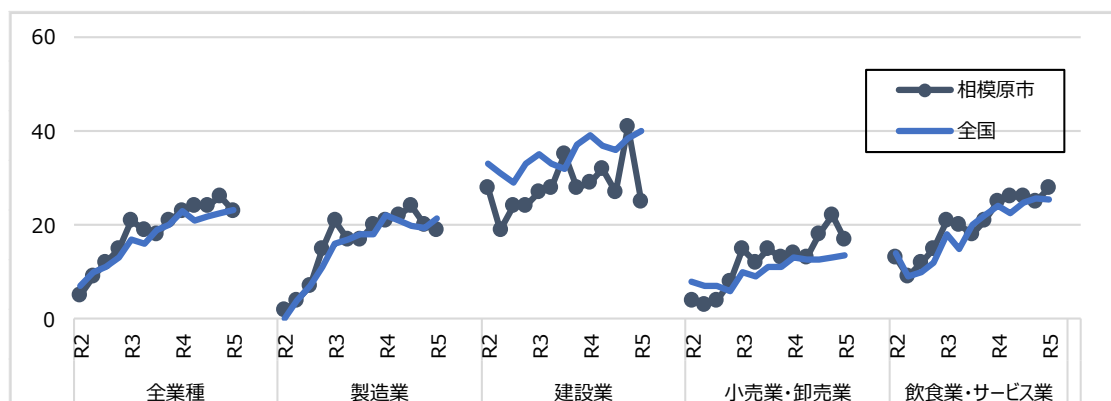


従業員DIの推移

従業員DI(前年同期比)の推移

全産業の従業員DIは、23(前期差3ポイント減)で、前期から微減であった。
産業別では、建設業は25で人手不足がやや緩和された。飲食業・サービス業は28で人手不足が続いている。製造業が19、小売業・卸売業が17で前期並みであった。
産業別に今期の数値を全国値と比較すると、建設業は全国の方が、人手不足感が高い。

(令和2年10-12月期～令和5年10-12月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「従業員数過不足DI」を使用。

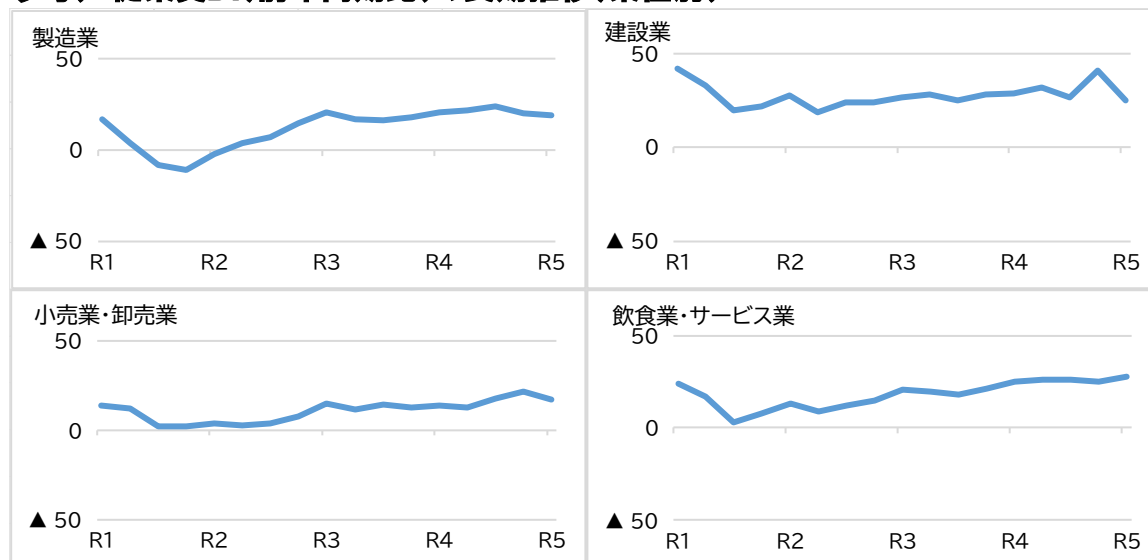
※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※従業員DIについて、当所では「前年同期比」、中小企業庁は「今期の水準(過去との比較ではない)」を調査

※従業員DIについて、当所では「DI=不足ー過剰、中小企業庁は「過剰ー不足」で算出。

比較にあたっては、全国値の符号を反転させている。

参考) 従業員DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



資金繰りDIの推移

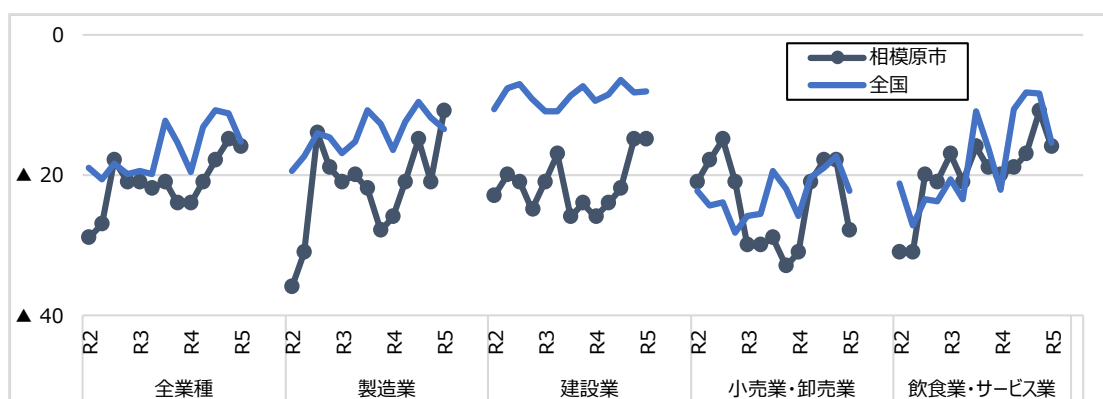
資金繰りDI(前年同期比)の推移

全産業の資金繰りDIは、▲16(前期差1ポイント減)で、前期とほぼ同じであった。

産業別にみると、製造業は▲11で改善。建設業は▲15で前期並みであった。飲食業・サービス業は▲16で、小売業・卸売業が▲28で、いずれも悪化した。消費者向けのビジネスは採算の悪化に伴い、資金繰りも厳しくなっているようである。

産業別に当市の今期の数値を全国値と比較すると、建設業と小売業・卸売業において全国よりやや悪い状況となっている。

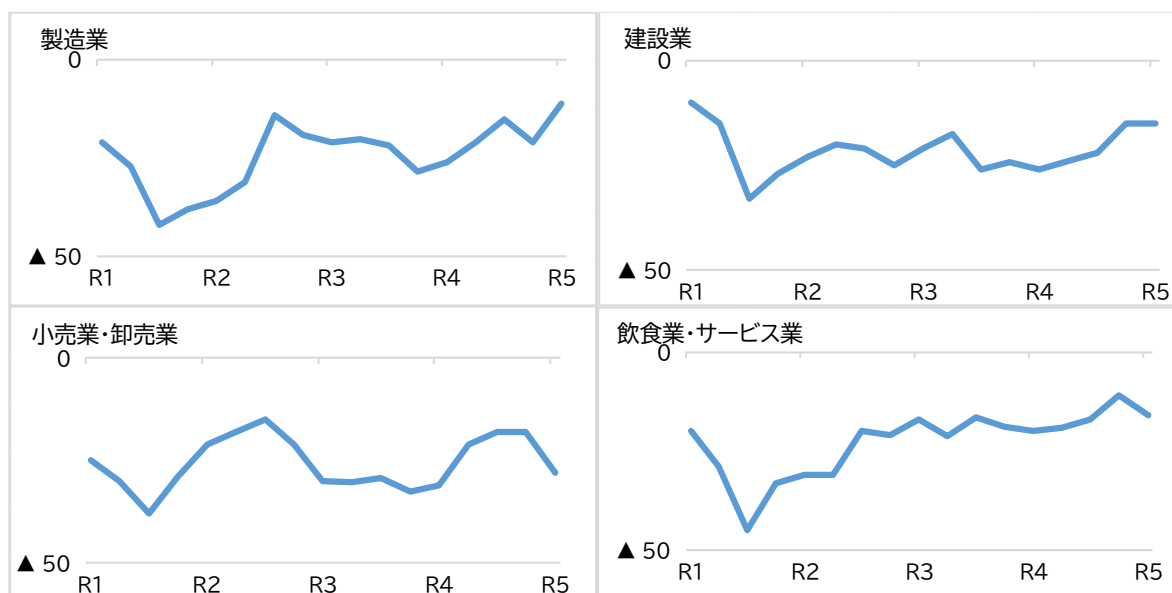
(令和2年10-12月期～令和5年10-12月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

参考) 資金繰りDI(前年同期比)の長期推移(業種別)



集計表(景気観測調査)

			今期(R5.7~R5.9)				次期見通し(R5.10~R5.12)			
			売上:増加 採算:資金、総 合:好転 仕入:下落 販売:上昇 従業員:不足	不变	売上:減少 採算:資金、総 合:悪化 仕入:上昇 販売:下落 従業員:過剰	合計/DI値	売上:増加 採算:資金、総 合:好転 仕入:下落 販売:上昇 従業員:不足	不变	売上:減少 採算:資金、総 合:悪化 仕入:上昇 販売:下落 従業員:過剰	合計/DI値
製造業	売上	サンプル数	55	50	56	161	43	70	48	161
		構成比	34	31	35	▲ 1	27	43	30	▲ 3
	採算	サンプル数	36	63	62	161	33	80	48	161
		構成比	22	39	39	▲ 16	20	50	30	▲ 9
	仕入単価	サンプル数	3	45	113	161	4	79	78	161
		構成比	2	28	70	▲ 68	2	49	48	▲ 46
	販売単価	サンプル数	61	91	9	161	40	113	8	161
		構成比	38	57	6	32	25	70	5	20
	従業員	サンプル数	35	121	5	161	36	122	3	161
		構成比	22	75	3	19	22	76	2	20
	資金繰り	サンプル数	18	107	36	161	18	112	31	161
		構成比	11	66	22	▲ 11	11	70	19	▲ 8
建設業	売上	サンプル数	26	79	56	161	25	91	45	161
		構成比	16	49	35	▲ 18	16	57	28	▲ 12
	採算	サンプル数	29	40	26	95	23	48	24	95
		構成比	31	42	27	3	24	51	25	▲ 1
	仕入単価	サンプル数	16	52	27	95	16	53	26	95
		構成比	17	55	28	▲ 12	17	56	27	▲ 11
	販売単価	サンプル数	0	26	69	95	0	42	53	95
		構成比	0	27	73	▲ 73	0	44	56	▲ 56
	従業員	サンプル数	23	60	12	95	16	67	12	95
		構成比	24	63	13	12	17	71	13	4
	資金繰り	サンプル数	26	67	2	95	27	65	3	95
		構成比	27	71	2	25	28	68	3	25
小売業・卸売業	売上	サンプル数	5	71	19	95	4	76	15	95
		構成比	5	75	20	▲ 15	4	80	16	▲ 12
	採算	サンプル数	13	53	29	95	14	54	27	95
		構成比	14	56	31	▲ 17	15	57	28	▲ 14
	仕入単価	サンプル数	20	32	34	86	18	40	28	86
		構成比	23	37	40	▲ 16	21	47	33	▲ 12
	販売単価	サンプル数	9	32	45	86	10	45	31	86
		構成比	10	37	52	▲ 42	12	52	36	▲ 24
	従業員	サンプル数	0	12	74	86	1	35	50	86
		構成比	0	14	86	▲ 86	1	41	58	▲ 57
	資金繰り	サンプル数	34	44	8	86	28	49	9	86
		構成比	40	51	9	30	33	57	10	22
飲食業・サービス業	売上	サンプル数	17	67	2	86	17	68	1	86
		構成比	20	78	2	17	20	79	1	19
	採算	サンプル数	3	56	27	86	6	57	23	86
		構成比	3	65	31	▲ 28	7	66	27	▲ 20
	仕入単価	サンプル数	8	46	32	86	10	42	34	86
		構成比	9	53	37	▲ 28	12	49	40	▲ 28
	販売単価	サンプル数	65	92	79	236	47	121	68	236
		構成比	28	39	33	▲ 6	20	51	29	▲ 9
	従業員	サンプル数	28	116	92	236	29	129	78	236
		構成比	12	49	39	▲ 27	12	55	33	▲ 21
	資金繰り	サンプル数	8	99	129	236	7	124	105	236
		構成比	3	42	55	▲ 51	3	53	44	▲ 42
全業種総合	売上	サンプル数	44	174	18	236	33	182	21	236
		構成比	19	74	8	11	14	77	9	5
	採算	サンプル数	68	165	3	236	64	168	4	236
		構成比	29	70	1	28	27	71	2	25
	仕入単価	サンプル数	13	173	50	236	16	170	50	236
		構成比	6	73	21	▲ 16	7	72	21	▲ 14
	販売単価	サンプル数	24	131	81	236	21	140	75	236
		構成比	10	56	34	▲ 24	9	59	32	▲ 23
	従業員	サンプル数	169	214	195	578	131	279	168	578
		構成比	29	37	34	▲ 4	23	48	29	▲ 6
	資金繰り	サンプル数	89	263	226	578	88	307	183	578
		構成比	15	46	39	▲ 24	15	53	32	▲ 16
全業種総合	売上	サンプル数	11	182	385	578	12	280	286	578
		構成比	2	31	67	▲ 65	2	48	49	▲ 47
	採算	サンプル数	162	369	47	578	117	411	50	578
		構成比	28	64	8	20	20	71	9	12
	仕入単価	サンプル数	146	420	12	578	144	423	11	578
		構成比	25	73	2	23	25	73	2	23
	販売単価	サンプル数	39	407	132	578	44	415	119	578
		構成比	7	70	23	▲ 16	8	72	21	▲ 13
	従業員	サンプル数	71	309	198	578	70	327	181	578
		構成比	12	53	34	▲ 22	12	57	31	▲ 19
	資金繰り	サンプル数								
		構成比								

集計表(トピックス)

製造業
「円安が続いている事」「海外アフターマーケットの受注減」【マグネチックバルブ・グロープラグ】
1.在庫調整2.中国の経済状況悪化【電気回路】
お客様の3割が好景気、7割は低迷。全体的な底上げが見られない。【半導体、建機、医療器等の板金部品製造】
お客様の閉鎖、倒産、受注減【不織布製品の企画製造販売(不織布バッグ)(不織布巾着)(ハッピー)その他】
コロナ以降景気低迷が続いていたが、当社主要顧客である電力、鉄道会社など設備投資額が好転していない。コロナも5類になり今後に期待したい。【通信用保安器、電源用保安器他】
コロナ禍の反動が未だに影響している。そこに材料／物価高が加わり、売上減と採算悪化に拍車がかかっている。【電子回路設計、製造、販売】
コロナ禍以降、需要は回復しているが、慢性的な人手不足により十分に組み込めていない。【生コンクリート製造販売】
サプライチェーンの問題が継続、仕入価格高騰、円安の悪影響、事業構造の変化、得意市場の縮小、新規事業立ち上げ急務。【汎用産業機械の開発設計及び生産】
どの業界でも厳しい状況が続いており、不透明な先行きです。【精密金属加工業】
まだ回復に時間がかかると思われる。【精密部品加工業】
案件が決まらない、見積だけで本決まりしない。【筐体設計】
円安で中国からの原料輸入が厳しい。【角型紙管、ペーパーアングル等製造販売、シリカゲル等吸着剤の加工販売】
円安による影響で、仕入がかなりしんどくなっている。【ヨット、マスト、リギン製造、設計他】
円安の影響と消費の低迷。【発泡スチロール加工】
円安の影響により仕入単価上昇が続いている。人手不足が大きな問題となっており仕事はあるがこなせない状況。設備投資は助成金がないと難しいが手続きがさらに難しくなかなか進まない。【アルミ手摺、門扉等の製造・取付】
円安の傾向から脱却を望む。【電子応用機器の設計・製造】
下期に入りましたが、良くなる兆しはありません。【加工部品(治工具・試作・精密部品)】
化粧品分野の売上は落ちる季節ではあるが、中国での不買傾向や景気悪化の影響も多少は感じる。来年は今年のような海外向け製品の特需は落ち込むかもしれない。【各種製品の加工・検査及び包装】
外注依存。【製造業】
求人しても応募がない。【精密機械設計製作】
求人を出しても雇用できない。【土木工事に供する特殊機械設備の設計製造及び販売】
景気の予測が全く立たない。【プラスチック金型の設計製作】
少しずつですが、仕事量が回復しています。【配電盤組立】
原材料価格の上昇に加えエネルギーコストの上昇が収益悪化に大きく影響している。【歯磨剤、化粧品の製造販売】
個人消費が上がらない。【ジャズポップコーン、ポップコーン原料豆】
顧客の資金不足。【製缶板金】
工場稼働率の低下、資材関連の上昇、エネルギー関連上昇など収益が厳しい。【ガラス、土石製品】
材料費が高止まりしている状態で、利益率の低下が続いている。【工作機械の部品、半導体製造装置の部品】
仕入れ価格の上昇。【精密部品加工、加工治具製作・設計】
主たる業種は売上、利益の増加であるが新事業への支出が多く、全体を左右している。【受託製品、機械加工品、製品等】
主要向け先の在庫調整の影響大。【金属(アルミ)表面処理加工】
取引先の動きが悪く、受注量の減少が激しい。【金属熱処理】
受注の減少。【電子機器の製造】
受注の減少と経費の値上げ。【精密部品の機械加工(自動車部品、バルブ、半導体)】
受注も順調に回復してきましたが、材料単価上昇の販売価格に転換が足りていない。お客様のイメージする価格帯がなかなか、上がらない。しかしながら、価格転換をしないとダメだと考え徐々にしていきます。【畳】
勝組、負け組の差が開いてきている。中小企業の活力が無い。経営者の高齢化と後継者はいても事業を継続していく不安が大きい。【搬送用ケース製造】

予定納税が大変…。【省力化機器の設計製造】
新規従業員の採用が至難となって来ている。【輸送用機械部品】
新製品の3月発売で売上増となった。来年はその延長で売上、資金繰りは好転の見通し。【医療機器およびその周辺機器の製造販売】
新製品の発売に伴う、売上増。【医療機器及び関連商品の研究開発、製造販売】
新卒採用の停滞。【電力機器、配電機器、免振・制振・制音デバイス、精密デバイス】
新卒従業員の営業職の採用が困難である。【臨床検査薬の開発、製造、販売】
深刻な人手不足、人が集まらない。【金属製品塗装及びめっき】
人員不足。【プラスチック製造】
先が読めない。良くなる話がない。【シャフト・ベアリングケース・ブラケット等】
先行不透明。受注増見込が少ない。【光学ガラス受託加工業】
相変わらず1部の電子部品が入手困難です。それと円安の影響で海外から購入する電子部品が高く、少しでも円高になったタイミングで購入しています。【電子回路基板の回路設計およびソフト設計、製造】
相変わらず様々なコストは上昇傾向にあるが、売り単価の改定は実現できていない。受注量が増加しているため、その分は賄えているが、量が減るとコスト増がダイレクトに響いてくる可能性がある。【ショットブラストおよび下塗り塗装】
多業種に比べると案件は多いが収益率は低い。【食品機械製造業】
中小企業の売上が低調。【金属焼付塗装】
賃上げできるほど収益が増えていない。税金が高すぎる。【金型プレス加工】
賃上げをしたが、収益(売上)は増えず、厳しい環境は続く。【製造業】
電気ガソリン等価格の高止まり。【金属部品加工】
電気部品不足の早期回復を願います。PLC、インバーターはいまだに納期18か月です。【超音波洗浄装置設計製造販売】
電話がならない。決まらない(受注につながらない)。【装置製作販売】
売上自体は横ばい間が強いが諸経費の増加、特に設備機械等の老朽化による諸経費の増大がネックとなっている。また、設備投資への資金調達が不安。【軟質ウレタンフォーム加工及びウレタンチップフォーム製造加工】
半導体関連の受注急減。【金属製品加工】
半導体関連の大幅な受注減。【一般産業用機械部品製造・設計・組立】
半導体等設備投資の抑制から売上減少が予想されていましたが、想定以上の売上減少と長期化が予想される。【電子部品製造販売】
部品調達に納期がかかっています。部品によっては長期納入があります。【省力機械製造業】
物の動きが減少している。【段ボール製函紙器一式・梱包資材取り扱い】
物価高、電力費高。【プラスチック加工】
弊社ユーザ層である金融業界の設備投資が好転しており、この半年から1年は順調にすむ想定。【ストレッチ製品の開発・製造・販売・保守】
未だに半導体不足が続く。部材費や加工費が増加している。【工業用自動機の開発・製造・販売】

建設業
インバウンドの回復及びコロナ禍での投資抑制の反動もあり、投資意欲は旺盛。労務逼迫、資機材コスト動向を注視しつつ更なる利益改善に取り組む必要がある。2024年4月に迫った「時間外労働上限制限」への全社一体での取り組みは急務。デジタル活用、人材育成、協力会社との連携など、中長期を見据えた現場力の強化が必要。脱炭素社会への適応・貢献と利益創出の両立が必要。【土木、建築工事請負業・不動産事業】
インボイス開始による取引先の状況が神経質なこと。【看板業】
価格競争が激しい。【解体業、産業廃棄物処理業】
夏くらいから悪化の兆候は見られた。【リフォーム】
希望する人材がなかなか集まらない。【建設業】
経費の増加、雇用不足。【測量工事】
建設において施主からの値下げ依頼が多すぎる。居宅介護の求人において人手不足を感じる。【クリーンルーム居宅介護支援】
公共工事の減少。【公共工事】

工事受注は、取れておりますが、協力会社に発注するため(人手不足の為)利益が少ない。自社で施工できれば増益につながります。材料代も上がっているので利益が薄いです。【管工事業】
好機としては国の補助金に対しての施工依頼の増加。低下については年明けより補助金がなくなり売り上げ減少の予感。【エクステリアの工事 販売】
材料・外注労務・諸経費の全てが単価上昇している状況で、上げ止まり感がなく一部は更に上昇すると推測される。見積作成時に今後も注意が必要である。【土木・建築の施工】
仕入価格の上げ止まり。人手不足。【特注家具設計・施工】
仕入単価の上昇。【緑地管理】
受注に関して、発注側からのデーター等が無い又は乏しく、受注までの経費が掛かりすぎる。景気は悪いと感じる。仕入価は上がっているが、見積、請求に反映できていない。【管工事業】
受注単価は変わらず、仕入材料、給料等上昇している(受注不安)。
従業員(含、臨時)が不足。【防水工事業】
従業員の高齢化に伴う上昇志向の低下。【建築内装工事】
従業員不足、協力会社不足、資機材納期の長期化が今後もしばらく継続すると思われる。【総合建設業およびこれに関連する業務】
職人さんが不足している。現場が遠く、道混雑などで仕事の段取りが大変なのに、残業時間規制があると、大変困ります。納期とか、途中で止まらない仕事内容とかがあり…。このままだと、仕事が続けられなくなる。ITなどができない職種とか、小さな会社もあるので…。【建設業】
人手不足とともにお客様の都合で日曜、祝日も作業しなければならないことも多々ある。【造園業】
政府がだらしく、若者が未来を感じていない。【工場、事務所、住宅、アパート、リフォーム】
物件が動き出しているため、仕事の案件は多くなっている。人員増強すれば更に売上を期待出来る状況だが、厳しい。【電気設備工事】
補助金のおかげで売り上げは順調、補助金がなくなった後が心配。【建具工事業】

小売業・卸売業
ガソリンの値上げ、円安。【作業用品(作業服、手袋類他)】
イベント(売り出し)等で売上確保。販売の仕掛けが重要。金の値上げは販売先の影響が大きい。【ジュエリー、時計、メガネ他】
この過去3年間の電子部品の入手性悪化により、客先が過剰な在庫補充を行ったためによる在庫調整の発生が長期化傾向。円安による材料高騰の影響で部品単価が年数回発生した目による利益悪化。【電子機器、部品等の販売商社】
コロナも落ち着いてきて今まで巣ごもり需要で忙しかった、リフォーム事業が他の産業への需要が流れている。【住宅設備卸売業】
コロナ禍以降、客足が戻らない。【衣料品小売販売】
メーカーの価格上昇が継続しているのでいつまで続くのか。運送業界の2024年対応の行く末。【伝動機器販売】
為替相場。【電子機器及び部品の輸入販売】
円安、高齢化。【LPガス、灯油、リフォーム】
円安による原材料費の高騰やエネルギー費輸送費の高騰。【純正重炭酸入浴剤】
業界の全体的な景気が良くない事により、受注金額の減少につながっていると考える。【非鉄金属部品・材料等の販売】
近未来の明るい情報がない。コロナ渦より製造業が動いていないと感じる。【機械工具販売】
原価が年々上がっている。【小売業、EC販売】
今期は、前期同様で状況は、不変ですが、円安による仕入高騰が心配である。【LPガス、灯油・住設機器の販売、リフォームetc】
今期は「風」の中を進むような感じであった。【省庁向け資材・機材企画・開発・販売、インターネットショッピングモール内店舗運営】
今期は大型の案件を受注することが出来たため、資金繰り等は好転しているが、景気の変動によるものではなく、先行き同じように採算を取っていくことが出来るのかどうか不安を感じる。【業務用厨房機器・消耗品販売。厨房に関わる機器の設置工事等】
昨年は、神奈川割り等の補助金が売上増額に寄与していたが、今年度はそれがなかったために昨年度比で言うところ苦戦している。【特産品販売】
仕入価格の高騰。【ペット用品、日用品、食品、飲料水、家電】

仕入単価の上昇。【医薬品販売】
仕入単価の上昇、売上の不振など直近の業績と比較すると全体的に悪化傾向にある。【健康食品の小売、卸売取扱商品／玉葱皮茶など】
仕入単価高騰の中、販売価格にあまり反映できず、利益率の低下が起こっている。【射出成形機及び周辺機器の卸売り販売、自動機、金型の製造販売】
仕入値上がり分をストレートに売上に繋がらない。【自動車部品】
消費者(販売先)がネット販売の利用を増やしていること。【家庭食物、雑貨】
消費者様の意識の変化。コロナの影響がいまだにある。消費する意識が無くなっていると感じます。【光触媒製品、空气中触媒製品の開発と販売】
上記は輸出企業向販売好調、下期は逆に落込み予測、ただし国内向内需拡大予測。【工業用錆、樹脂、ゴムその他の卸】
食品は比較的好調に推移していますが、8月まで好調だった衣料品が9月に入り低迷しています。秋も高気温が続いたことが原因と思われます。光熱費の上昇による経費増加、利益減少が続いています。【衣料品、住まいの品、食品】
新型コロナウイルスの影響が収まり、取引先ショッピングセンターの売上げが増加。年末年始の需要もコロナ禍以前に回復すると見込まれるため、見通しは若干明るくなっています。【米菓製造販売】
人が来ない仕事がない。転職も不安。【はんこ】
人手不足。【小売業】
値上げが続くと思うと物販は厳しいと思う。【建設資材等の販売】
半導体チップ等の不足で物作り減少で出荷にマイナス影響。【工業用レンズ、医療機器用レンズ、光学レンズ輸出】
物価上昇に伴い需要が縮小。【地方卸売市場(青果)の運営】
物価上昇及び給与の実質低下。【メガネ、コンタクトレンズ、補聴器販売】
無駄な金を使わない。【コンビニエンスストア】
輸出が好調。【健康食品】
例年10月から3月までは高い売上げが見込まれていたが、今年は売り上げが思うように伸びて行かない。給与アップをしたことで固定費が上がり、このまま売り上げ不振が続くと少し心配になる。【空気圧機器の卸売(一部製造)】

飲食業・サービス業
客数の減少、春頃から求人を出しているが全くというほど応募がない(あっても高齢者)。【接骨院】
10月1日からのインボイスで処理が大変。中小企業は苦慮。【社保業務】
①価格転嫁に限度があり、収益が悪化しかねない。②人手不足の影響は大きい。【教育事業】
4月より値上げをしているが、これ以上販売単価を上げるのが難しい中、物価の高騰は続き利益率が下がっている。また人手不足であるが人件費が上がっていることもあり、スタッフを増やすのが厳しい状況にある。【ホテル業】
4月以降、売上は好調時の状態に近づいているが、経費も上昇している為、更なる売上増加の必要性を感じる。【鍼灸院】
DX化の推進。【経理・人事の業務代行サービス】
いつの間にかコロナのコの字も出なくなった。このまま流れてほしい。【旅行手続、旅行商品の販売】
インボイスによる影響により受注減。【測量】
インボイス関連。【不動産賃貸全般】
インボイス制度の運用開始で個人事業者(免税事業者)の売り上げ減が想定。また、顧客の中小企業様では管理負担増。【プレス機械関連の自動化・システム化と安全評価、品質保証活動】
お客様の減少に伴う売上減少。【小中学生の学習指導・進路指導】
コロナを気にする人々が少なくなり、宴会などが戻って来た。【レストラン・パーティー・イベントホール】
コロナ禍、インフルエンザの流行により、外出を控える高齢者がまだ多くおり、営業活動に支障を来している。【行政書士業】
コロナ後のほうがきびしい。【餃子専門店】
スタッフのコロナ感染の増加。【福祉事業、障害者グループホーム】
ダミー形態の企業(圏外本社が市内に存す)が低価格で参入すると、適正価格での応札が難しく、収益の安定が図れない。指名→一般入札の変更も影響大である。【ビル清掃、設備管理業】

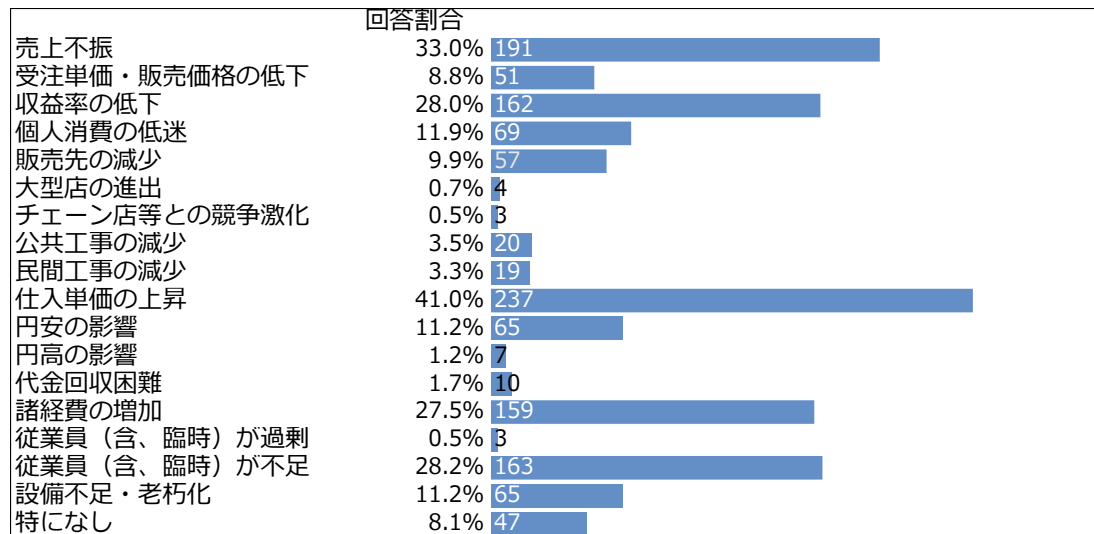
某社問題と保険業界に絡む不祥事案が増えているので、保険業界の信頼が低下しないかが不安。【損害保険代理店、生命保険代理店】
メーカーより価格の値上げで見積りが決まらず、販売減少。【コンプレッサーの販売、修理点検など】
医療のサービスを提供しているが、個人のチケット購買回数・来院回数は減っている。【その他の業種】
円安の影響、物価高の影響、光熱費の上昇における影響、ガソリン価格の高騰における影響、原材料費の高騰、上記に起因と消費者の購買欲の低迷。【墓石清掃、墓参代行、墓石クリーニング、墓石コーティング、墓石メンテナンス、石材特殊清掃、埋葬業、石材関連】
各種仕入れ価格の上昇はあるが、価格に転嫁できていない。【グリーンレンタル】
各種税制改正によるコストや手間の増加の負担増。【公認会計士、税理士業】
凶悪事件の増加。【運輸業・倉庫業・梱包業】
景気の減退を雰囲気として感じる。【司法書士】
景気低迷、低賃金、間違った多様性の考えによる経営困難。【マンション、駐車場賃貸業】
建設施工単価が上昇しているのに元請の対応(理解)は低い。【建設DXに向けたシステム開発】
元々売上の増減が季節によりバラツキがありますが、今期増減の幅が広がった気がします。【厨房設備、厨房機器及びメンテナンス】
原材料および物価高騰の長期化による景気への影響。【中小企業金融】
個人消費の低迷と仕入れ単価の上昇。【蕎麦】
雇用状況。【インキュベーションセンターの運営】
雇用状況の改善希望。【プロスポーツチーム運営、サッカー普及活動、アカデミー・スクール事業、スポンサー広告・物販関連事業】
顧客の減少。【情報通信サービス業】
顧客の売上不審による経費削減が目立ち、契約解除されるケースが目立つ。【士業コンサルタント業】
厚労省の障害者就労支援事業のため法律が変わらない限り収入増は、見込めない。2024年6月以降、厚労省の障害者施設への職員給与の増加が見込まれる。【障害者の就労支援】
工事費の上昇(円安による輸入資材の原材料上昇、賃金の円安による相対的低下で海外労働者の国内への出稼ぎ人数の不足・減少)。弊社は一人社長の会社の為人手不足には直接関係ないが、関連する建築会社は人手不足のため工事費アップし間接的に影響を受けている。【不動産のコンサルタント、権利調整、不動産仲介】
高齢化による来店者の減少。【美容業】
国会解散は憶測先行し景気対策が後回し、お金を配るのではなく、給料値上げが肝要だ。【不動産・物品賃貸業】
採用について年々厳しさを増してきている。【人材派遣業】
仕入の値上げ、従業員賃上げ。【中華レストラン】
仕入れ単価の上昇。【生ジュース調理販売】
仕入れ単価上昇に伴い、止むなく販売単価を上げ、昨年度よりは売上は上昇しているが、粗利益率がとても悪い。【韓国料理、焼肉】
仕入上昇、コロナ禍後人の動きや集まり減少している。【居酒屋】
仕入単価が全て上がっている。【観葉植物のレンタル業】
資材の高騰の影響でリフォーム工事やお客様の負担金額が増えています。【不動産・物品賃貸業】
受注先営業成績減少。【専門・技術サービス業】
従業員不足。【自動車整備】
食材をはじめ、あらゆる物の単価上昇に頭を痛めております。【居酒屋】
食材以外の経費の上昇が大きい。【居酒屋】
人員の定着確保、収益性確保。【冠婚葬祭、介護】
人員不足物、価高騰による経費上昇、設備が手に入りづらい。【廃棄物処理業、建設清掃業、工業薬品販売業】
人件費、食材、光熱費の上昇により経営が厳しくなっていくだろうと思われる。【飲食業・宿泊業】
人件費の上昇の対応の遅れ。【ビルメンテナンス業】
人材不足。【税務署類の作成】
人材募集をしてもなかなか来てくれない、同業者や取引先等の中小企業では景気感が感じられない。【こん包業】

人手不足が最大の要因である。需要は年々増加傾向にあるが、訪問介護員の数に追いつかない。募集方法を色々考えているが、なかなかうまくいかない。何か良い方法があれば指導願いたい。【訪問介護事業】
人手不足による売上の低迷。【ダスキン全般】
製造の人手不足が低下している影響がしばらく続きそうです。【産業機械の設計製図】
税、社会保険料の増加による圧迫。【その他のサービス業】
沢山募集しても応募者がいない。【運輸業・倉庫業・梱包業】
町田相模原エリアの不動産流通は低調のままで新築戸建ての在庫過多が続いています。しかし、県内一部地域については流通が上向き始めているため期待のできる今期となります。【不動産買取再販・仲介・管理】
賃料の値上げが出来ず、諸物価が上昇に不安あり！【不動産・物品賃貸業】
土地価格の値上げにより、個人客の買いが少ない。【不動産・物品賃貸業】
二極化が加速している。【按摩マッサージ指圧 治療院経営事業、医療系学生向け解剖学オンライン講座事業、基礎解剖学出版事業】
燃料高騰、オイル、ゴム製品の値上がり、運賃変わらず、来年に迫る24年問題、、、【自動車部品】
派遣人材の不足。派遣単価の据え置き。【労働者派遣】
不動産市況の低迷の長期化。【不動産、法人登記、後見業務、裁判書類他】
福利厚生制度の整備・充実。【設計受託請負業務、労働者派遣事業、求職者支援訓練事業】
物価高と人材不足。【一般貨物運送事業】
物価高の影響で入ってくる荷物が減少気味になっていて、いつ戻るか先行きが不透明。【産業廃棄物処理業(焼却)】
物価高騰。【動物病院】
物価上昇、賃金値上げ。【会計事務所】
物価上昇、品不足による値上げが止まらない。客足はもどおりつつありますが、個人消費がやや低迷しています。中東戦争の影響、エネルギー不足により来年以降 経済先行きが不安。【海鮮居酒屋】
物価上昇と調達リードタイムの長期化。【廃棄物処理・再生資源卸売】
物価上昇により、値上げ交渉がしづらい。【企業の労務管理】
物価上昇により、利幅の減少。【保育事業】
弊社はOEM請負のため売上の90%の値段は変えられずに商売しているためガソリン原材料費の高騰で利益率が悪化している。【カーコーティング、钣金塗装】
法改正によるインボイス制度の対応。【グループ会社の経理、総務等事務処理】
本年度は、取得した特許技術(汎用型AIに分類される情報処理技術)の国内利用展開のため、講習会資料の作成と10月からの都内講習会開催に注力したため無収入の状況が続いた。講習資料の作成/Webによる講習会の案内・他の準備が整ったこともあり、今後は講習会の開催と関連企業/大学/AI研究組織などへの営業による収益好転を期待している。。【PLM開発コンサルタント、汎用型AI(特許第7124259号)の活用展開】
毎年の最低賃金の上昇に伴い、取引先に値上げ交渉をしていて数社は応じてくれたが全体的には難しい状況です。人材ありきの業種なので、毎年の最低賃金の上昇により労務費全体に負担がかかっている。。【ビルメンテナンス業・建築物内外の清掃全般・貯水槽内の点検清掃・空気調和設備・給排水設備の運転保守・各種環境測定・害虫害獣駆除・産業廃棄物収集運搬・管工事・造園植栽施工】
来店客の減少。【頭髮のカット、顔剃り等】
来店客の単価はむしろ上がっていると思いますが、来店頻度が減っていると思います。【美容業】
来年の診療報酬のマイナス改定。【訪問診療及び外来診療】

経営上の問題点

単純集計

経営上の問題点(3つまで回答可、n=578)



製造業

今回調査を見ると、「仕入単価の上昇」「売上不振」「諸経費の増加」「円高の影響」「従業員が不足」「収益率の低下」が増加した。景況の数値は製造業では改善傾向にあるものの、経営の課題としては依然として改善には至っていないようである。

	R4年10~12月 n=240	R5年1~3月 n=243	R5年4~6月 n=156	R5年7~9月 n=179	今回調査 n=161
売上不振	42.9%	41.6%	44.8%	33.5%	37.3%
受注単価・販売価格の低下	12.5%	13.2%	6.7%	10.1%	11.2%
収益率の低下	38.3%	38.7%	43.6%	24.0%	26.7%
個人消費の低迷	2.1%	2.9%	31.5%	1.1%	1.2%
販売先の減少	7.9%	10.3%	13.9%	8.4%	9.3%
大型店の進出	0.4%	0.0%	5.5%	0.0%	0.0%
チェーン店等との競争激化	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
公共工事の減少	1.3%	1.6%	2.4%	1.1%	1.2%
民間工事の減少	1.7%	2.9%	2.4%	1.7%	1.9%
仕入単価の上昇	67.5%	65.0%	65.5%	42.5%	47.2%
円安の影響	23.8%	10.7%	10.9%	15.1%	16.8%
円高の影響	2.5%	1.2%	1.8%	1.7%	1.9%
代金回収困難	0.0%	0.4%	1.8%	0.0%	0.0%
諸経費の増加	23.8%	29.2%	43.6%	26.3%	29.2%
従業員(含、臨時)が過剰	0.0%	1.2%	0.6%	0.0%	0.0%
従業員(含、臨時)が不足	16.3%	23.0%	38.2%	24.6%	27.3%
設備不足・老朽化	14.2%	12.3%	20.0%	13.4%	14.9%
特になし	3.3%	2.9%	10.3%	6.1%	6.8%

経営上の問題点(業種別)

建設業

前期と比較して、「売上不振」「諸経費の増加」「従業員が不足」「仕入単価の上昇」「公共工事の減少」「収益性の低下」等が増加した。前期一旦収まってきた仕入れ単価の上昇が、再度悪化しているようである。

	R4年10～12月 n=188	R5年1～3月 n=141	R5年4～6月 n=111	R5年7～9月 n=112	今回調査 n=95
売上不振	34.0%	21.3%	40.5%	20.5%	24.2%
受注単価・販売価格の低下	7.4%	14.2%	12.6%	12.5%	14.7%
収益率の低下	21.3%	34.8%	38.7%	24.1%	28.4%
個人消費の低迷	8.0%	9.2%	4.5%	6.3%	7.4%
販売先の減少	5.9%	4.3%	11.7%	3.6%	4.2%
大型店の進出	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%
チェーン店等との競争激化	0.5%	0.0%	0.0%	0.9%	1.1%
公共工事の減少	5.3%	14.9%	1.8%	12.5%	14.7%
民間工事の減少	4.3%	17.7%	9.0%	9.8%	11.6%
仕入単価の上昇	24.5%	63.8%	52.3%	37.5%	44.2%
円安の影響	5.9%	5.7%	2.7%	6.3%	7.4%
円高の影響	0.0%	2.8%	0.0%	0.9%	1.1%
代金回収困難	3.7%	2.8%	0.9%	1.8%	2.1%
諸経費の増加	28.7%	23.4%	31.5%	19.6%	23.2%
従業員（含、臨時）が過剰	1.6%	0.0%	4.5%	0.0%	0.0%
従業員（含、臨時）が不足	30.9%	31.2%	34.2%	30.4%	35.8%
設備不足・老朽化	10.6%	2.8%	16.2%	4.5%	5.3%
特になし	12.2%	5.0%	18.9%	7.1%	8.4%

小売業・卸売業

「個人消費の低迷」「売上不振」「収益率の低下」「仕入単価の上昇」「諸経費の増加」が増加した。仕入や経費の値上がりや個人消費の低迷が続いているようである。

	R4年10～12月 n=166	R5年1～3月 n=117	R5年4～6月 n=105	R5年7～9月 n=97	今回調査 n=86
売上不振	22.9%	41.0%	48.6%	36.1%	40.7%
受注単価・販売価格の低下	13.3%	6.0%	6.7%	4.1%	4.7%
収益率の低下	26.5%	26.5%	41.9%	26.8%	30.2%
個人消費の低迷	4.8%	23.9%	2.9%	26.8%	30.2%
販売先の減少	6.0%	16.2%	11.4%	16.5%	18.6%
大型店の進出	0.0%	2.6%	0.0%	2.1%	2.3%
チェーン店等との競争激化	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	1.2%
公共工事の減少	8.4%	1.7%	1.9%	1.0%	1.2%
民間工事の減少	16.3%	2.6%	2.9%	0.0%	0.0%
仕入単価の上昇	50.6%	57.3%	67.6%	47.4%	53.5%
円安の影響	6.0%	16.2%	6.7%	14.4%	16.3%
円高の影響	1.2%	6.0%	1.0%	1.0%	1.2%
代金回収困難	1.8%	3.4%	1.0%	1.0%	1.2%
諸経費の増加	15.7%	27.4%	38.1%	19.6%	22.1%
従業員（含、臨時）が過剰	1.2%	0.9%	1.9%	0.0%	0.0%
従業員（含、臨時）が不足	17.5%	14.5%	32.4%	14.4%	16.3%
設備不足・老朽化	1.8%	6.8%	21.0%	8.2%	9.3%
特になし	3.0%	4.3%	2.9%	2.1%	2.3%

経営上の問題点(業種別)

飲食業・サービス業

「仕入単価の上昇」「売上不振」「収益率の低下」「個人消費の低迷」「販売先の減少」「円安の影響」「諸経費の増加」「従業員不足」が増加した。経費の増加と人手不足が長引いているようである。

	R4年7～9月 n=408	R5年1～3月 n=386	R5年4～6月 n=265	R5年7～9月 n=279	今回調査 n=236
売上不振	35.9%	33.9%	18.5%	26.2%	30.9%
受注単価・販売価格の低下	6.6%	7.3%	9.8%	5.4%	6.4%
収益率の低下	32.3%	29.5%	21.5%	23.7%	28.0%
個人消費の低迷	24.0%	15.5%	6.8%	12.2%	14.4%
販売先の減少	10.5%	8.8%	4.9%	7.9%	9.3%
大型店の進出	2.4%	0.8%	0.5%	0.7%	0.8%
チェーン店等との競争激化	1.7%	0.0%	0.0%	0.4%	0.4%
公共工事の減少	5.4%	2.3%	3.9%	1.1%	1.3%
民間工事の減少	3.2%	2.3%	6.3%	1.8%	2.1%
仕入単価の上昇	51.8%	40.9%	35.6%	26.2%	30.9%
円安の影響	15.2%	8.3%	5.9%	6.1%	7.2%
円高の影響	1.2%	0.8%	1.0%	0.7%	0.8%
代金回収困難	0.5%	2.3%	0.5%	2.5%	3.0%
諸経費の増加	26.7%	30.3%	15.6%	25.4%	30.1%
従業員（含、臨時）が過剰	0.7%	1.0%	0.0%	1.1%	1.3%
従業員（含、臨時）が不足	22.7%	30.1%	16.6%	25.4%	30.1%
設備不足・老朽化	10.3%	11.1%	3.9%	10.0%	11.9%
特になし	3.7%	8.8%	2.9%	9.3%	11.0%